

令和4年度第2回印西市国際化推進懇談会 会議録

開催日時 令和5年1月27日（金）午前10時00分～11時15分

開催場所 印西市役所 農業委員会会議室

出席者 宍戸真会長、川喜田英博副会長、富田多美子委員、治田三夏男委員、渡邊信委員、マクドエル デービッド ジョン委員、渡辺正委員、江波戸洋子委員、リン エリック委員、張京玲委員、ラビンドラ デイ委員、マイケル フィルハート委員、齋藤 マリア ジェシカ委員（13名）
板倉正直印西市長

欠席者 山口道博委員、チュ ティ ロアン オアイン委員（2名）

事務局 企画政策課 高平課長、藤崎課長補佐、千葉井係長、杉山

傍聴者 0名

議題 印西市における国際化の推進について

議事録（要点筆記）

1. 開会

2. 委嘱状交付 板倉市長から、各委員に委嘱状が交付された。

3. 市長あいさつ 板倉市長からあいさつを行った。
（公務のため、あいさつ後に市長退出）

4. 会長及び副会長の選出 互選により、会長に宍戸真委員、副会長に川喜田英博委員が選出された。
会長より、選出に当たりあいさつをいただいた。

5. 議題 印西市における国際化の推進について

事務局 【資料2及びパワーポイントに基づき、議題について説明】

【以下、質疑応答】

治田委員 日本語教室りぼんの学習者はこの1年で急激に増えて100名を超え、特に外国人の子どもが増加している。子どもへの対応について関係者から話しを伺うと、理解のある学校の先生などの努力にたよっている状況で、個人の負担が大きいことがわかってきた。そうした問題は担当任せではなく、組織として対応することが肝要であり、今後は市としても、国際化推進懇談会と教育委員会が連携を図り、この問題に当たっていただきたいと思う。

事務局 外国人の子どもへの対応は新たな行政的課題だと受け止めている。ご意見のとおり、一部の個人に負担がかかる状況は継続性の点からも好ましくない。当課としても、今後は教育委員会と連携を図り、対応してまいりたい。

デイ委員 小さな工場で外国人労働者が大勢働いているが、テレビでいじめなどの報道がされている。労働基準法に基づき、市で調査などされているのか伺いたい。

事務局 市では相談機関を設けているので、問題がある場合は利用していただきたい。県や市は企業と関わりはあるが、個別の労働状況の把握までは難しいので、なにか困ったことがあればまずは相談していただきたい。この問題は難しい部分もあるが、大変重要だと考えている。

江波戸委員 外国人といっても、特にサポートを必要としていない人もいれば、必要としている人もおり、両極端である。若い人はQRコードやインターネットで必要な情報を見つけるが、そこまでしない人もいる。困っている人に、市の支援や支援情報の取組が届くような仕組みを整えていく必要がある。

事務局 行政側が受け身になっている部分があり、主に市ホームページが情報発信ツールとして活用されているが、完全だとは考えていない。やはりコミュニケーションの問題が大きいと思われるが、なにか困りごとがある方には出張所を訪ねたり当課に電話してもらえれば、市として前向きに対応できるので、積極的に利用していただきたい。また委員の皆様には、発信の取組で不足している点などお気づきのことがあれば、遠慮なく市に教えてほしい。一般的に情報弱者になりやすいのは、東南アジア出身の方などマイナー言語の話者で、かつ日本語があまり話せない方に多いと思われる。そうした方に向けては、近年推奨されている「やさしい日本語」での情報提供を行っているところだが、これから一層推進していきたい。また、窓口対応では、来年度からipadを活用した動画での同時通訳サービスを導入する予定となっており、コミュニケーションの向上が期待される。

フィルハート委員 中央駅地区や牧の原地区に特に外国人が多いとのことだが、なぜ印西市で外国人人口が増えているのか伺いたい。

事務局 住民基本台帳の人口動態をみると、ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア、スリランカなど東南アジア方面の方は移動が激しく、技能実習の研修や就業などの一時滞在者が多いと考えられる。一方、中国籍の方はマンションや戸建てを購入し、家族で転入してくるなど、仕事をもち定住する方が多いと聞いている。また、印西市は人口が減っている日本の中では数少ない、外国人だけでなく日本人の人口も依然増加している自治体となっている。その理由としては、千葉ニュータウン地区の開発がまだ続いていることに加え、比較的東京と空港に近いこと、自然に恵まれ、地盤が強固で地震に強いことが挙げられる。

渡辺委員 在住外国人が具体的にどのような職種についているのかについて市は把握しているか。

事務局 在留資格は把握しているが、具体的な職種のデータまでは把握していない。

江波戸委員 日本人の地域住民がどの程度外国人に関心があるのかに興味がある。市や国際交流協会でもいろいろ取り組んでいることとは思うが、外国人に対する市民の意識を変えていくことが重要であり、市民から新しい仕掛けをしていくような取組も必要である。また、コミュニケーション力を上げていくためには、学校での英語学習に力を入れていくことも必要である。

事務局 当課でも国際交流の取組は行っているが、現状で十分だとは考えていない。よいアイデアがあれば積極的に取り組んでいきたいし、予算を付けることも可能なので、いろいろご提案をいただきたい。

富田委員 ヒップファミリークラブという団体で、英語だけでなく、子どもたちが多言語でコミュニケーションする力を育てる活動をしている。小さな活動で、周知には時間がかかっているが、最近では東京基督教大学の留学生にもチラシを配り、連携に向けて取組を進めている。先日は、子どもが外国人に寄り添う姿勢を養うため、成田空港で外国人に話しかける活動を行った。今後は学校や教育委員会とも連携し、活動を広げていきたいと考えている。

渡邊委員 教育委員会では、漢字検定や数学検定で行ってきたのと同様に、来年度から英語検定を推進し、児童生徒のコミュニケーション力向上に取り組んでいく予定である。いくつかの小学校では国際理解の取組を行っており、中学校では以前から英語研修や海外派遣事業を行っている。これで十分というわけではないが、教育委員会でもそうした取組を進めている状況である。

治田委員 若い人への普及啓発が重要である。一例を挙げると、滝野小学校では授業で市の異文化理解講座を活用するなど、国際交流教育に力を入れている。印西市は、数年続けて住みよさランキング1位になったが、外国人にとって本当に住みよいまちかどうかはわからない。外国人にとっても住みよいまちになり、それがなんらかの指標として表れてくるとよいと思う。

事務局 市の総合計画「定住交流の促進」において、令和2年度の国際交流に関する市民満足度の合計は22.5%であった。この数値が高いか低いかの判断は難しいところだが、数値を上げていかなければならないと考えている。千葉県、白井市と共催で12月に開催した災害時外国人サポーター養成講座では、講師から参加者の意識が高いとの評価をいただいた。このように、市内には外国人支援に関心を持つ市民が一定数いると思われるので、今後その掘り起こしに努めていきたい。

また、市の異文化理解講座では、これまで外国人講師による母国紹介を原則平日に行ってきたが、今年度はJICA ボランティアの方を講師に迎え、「海外で活躍する日本人」という若い人向けの講座を夏休みに行った。小さな取組であるが、今後も企画を工夫して若い人の関心を高める事業を行っていきたい。

川喜田委員 印西市国際交流協会では、国際協力機構の草の根プロジェクトとしてタイの自治体と湯河原町が行っている、介護ケアシステムの連携プロジェクトに協力していくことになった。プロジェクトへの参加を通じて、印西市の高齢者福祉にもメリットを還元していきたいと考えている。少子高齢化の一層の進展を踏まえ、こうした地域コミュニティレベルでの解決はますます重要となっており、子どもの教育においても、地域の関わりが重要になってくると思われる。

事務局 近年では高齢化が進み、自治会活動も活発でなくなっているケースが増えている。外国人のごみの捨て方がよく問題になるが、個人的な経験では、生活する地域での日常的な交流の中で解決するケースがあった。ご意見のとおり、地域活動は大変重要であると感じている。

議 長 他にご意見、ご質問がなければ議題については以上とし、進行を事務局に戻します。

6. その他

事務局 (会議録の送付方法と報酬振込について委員に確認。)
次回の会議開催については、6月ごろを予定しております。次年度になりましたら、会長と相談の上、開催日時を決めてまいりますので、よろしく願いいたします。

7. 閉 会

事務局 以上をもちまして、令和4年度第2回印西市国際化推進懇談会を終了いたします。長時間、ありがとうございました。

令和5年1月27日に行われた印西市国際化推進懇談会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和5年2月9日

会議録署名委員 治田 三夏男